

文明堂のカステラ

カステラ一番 電話は二番・・・

「♪カステラ1番、電話は2番、3時のおやつは文明堂〜♪」。オープンバツハの「天国と地獄」の曲に合わせて、ぬいぐるみがカンカンダンスを踊る、文明堂のおなじみのCM。たとえ文明堂のカステラを食べたことがない人でもこのCMは知っているだろう。今回はそのCM秘話。

CM秘話



オープンバツハ「天国と地獄」の軽快なリズムにのせて、小熊のぬいぐるみが ラインダンスを踊るCMは、昭和38(1963)年から登場した。

ちらみに正式名称は「文明堂豆劇場・小熊のダンス」というらしい。ある調査によれば、日本人の98%の人が知っているという驚くべき認知度。

初めてテレビに登場したのは昭和 37 年。

先々代の社長である宮崎甚左右衛門が、カステラの本場長崎から東京へ進出する際、東京の人たちに「文明堂」を印象づけるために、いろいろと頭をひねり、そこでひらめいたのが、覚えやすい電話番号。

電話帳から電話番号を捜す時間と手間を省くだけでも、お客様に対するサービスであると考え、「カステラ1番、電話は91(こいち)番」というキャッチフレーズを思いついた。

「電話は2番」になったのは、「肉は1番、電話は2番」と宣伝して、その味と共に評判になっている大阪のすき焼きの宣伝文句にヒントを得た。

当初CMはアニメや人形劇スタイルが主流。当社もグリム童話などを題材にとったアニメや人形劇のCMを放映していた。その後、当時から大ヒットであった「カステラ1番、電話は2番、3時のおやつは文明堂」のコピーを最大限に生かしたCMを作りたいと考えていたが、なかなか良いアイデアが決まらない。

そんなある日(昭和37年)、当時の岡本社長(現会長)は、当時人気番組だったNHKの「私の秘密」に出演した、ノーマン&ナンシー・バーグ夫妻のマリオネット・ショーを目にした。それは、ぬいぐるみの動物たちが楽しいBGMに乗って、かわいいダンスを踊るショー。岡本社長は「これだ!」と思った。

動物たちのマリオネット・ショー…これはカステラの購買層である子供やお母さんたちにきっと喜ばれるにちがいないと。そして、ペンギンや猿など、いくつか試した結果、仔グマのカンカンダンスにたどり着いた。

バーグ夫妻は当時欧米で人気のあった、カンカンキャット、つまり猫を想定してぬいぐるみを作っていた。しかし、日本では猫よりもクマの方に人気があり、明るい感じもすると言う理由から、文明堂はそのキャラクターをクマに決定した。仔グマがCMの最後でシッポを振るところは、元々猫であったということの名残。

そしてこのロングセラーCMは基本を変えずに 色々なバージョンがつけられ、愛され続けている。

広告のコピーとCMが、商品のロングセラーを支えているという典型的事例として取り上げました。

ちなみに、日本橋本店の電話番号は03-3241-0002で、看板に偽りはない。他に、電話番号を0002にしている店舗がいくつかあるという。

ただ、電話番号に関して言えば、「電話は4126(ヨイフロ)」を徹底している、ハトヤホテルに軍配を上げたい。